

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	大橋 さつき【論文博士】	<p>本研究では、ムーブメント教育と身体表現活動を基盤に展開してきた筆者独自の実践を「創造的身体表現遊び」と名づけ、その特徴からねらいや構造を明らかにし、発達障がい児支援における「創造的身体表現遊び」の理念や意義について論じることを目的としている。</p> <p>これまでに筆者が実践してきた 60 のプログラムの記録を対象に分析を行い、その特徴を明らかにした結果、発達障がい児支援における「創造的身体表現遊び」の可能性として、3つの仮説、①空間把握能力の向上を促し、さらに、高度な運動遂行能力の獲得に関係している、②コミュニケーション能力の向上に機能している、③発達障がい児の喜びや満足感、達成感、意欲の向上を支える要素が強く、自尊感情の低下を防ぐ効果がある、を導き出した。その検証を通して、「創造的身体表現遊び」の環境は、発達障がい児の「動きたい」「かかわりたい」という欲求を促し、彼らは環境（他者や遊具）との対話の中で主体的に動き、身体運動能力、コミュニケーション能力、自尊感情を高めていることが示唆された。</p> <p>本論文に対する審査は査読に基づいて二回行われ、第一回審査会では、筆者のこれまでの実践活動を通して得られたデータに基づき問題、仮説の設定、検証という流れが明確であること、実践的内容の理論化に社会的、学術的意義が認められることなどが高く評価された。しかし、筆者の実践を対象としていることでの客観性の担保、また実証データに対する批判的視点が見受けられないこと、さらに、「創造的身体表現遊び」の『幼稚園教育要領』における位置づけなどへの記述等、それらの箇所での修正が求められた。第二回審査会では、以上の指摘に対し適切且つ妥当な加筆修正が施されていることを確認し、論文の完成度が高まったと評価された。</p> <p>公開発表後、それに引き続いて行われた最終試験における質疑応答においても、真摯な姿勢で満足すべき応答が得られ、研究に対する理解力と学力が十分であるものと判定された。</p> <p>以上の結果、本論文は博士論文としての到達点に達していると評価され、本審査委員会は全員一致で、学位申請者大橋さつきが最終試験に合格し、人間文化創成科学研究科の学位、博士（学術）Ph. D. in Dance Studies として認定するに値すると判定した。</p>
論文題目	発達障がい児を育む「創造的身体表現遊び」の実証的研究	
審査委員	(主査) 教授 猪崎 弥生	
	教授 内藤 俊史	
	准教授 水村 真由美	
	教授 新名 謙二	
審査委員	教授 浜口 順子	
	教授 新名 謙二	
インターネット公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（可・<input checked="" type="radio"/>否）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;"><input checked="" type="radio"/>ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	